

# 帆樯成林

—はんしょうせいりん—  
新潟市歴史博物館  
博物館ニュース  
vol.60

「帆樯成林」とは？  
帆柱が林のように多く立つ様子を表した語。  
人が多く出入りする活気ある「みなと」をイメージしました。



2024年は辰年。飛躍の一年になるよう、みなとびあおみくじで運勢を占ってみませんか。



新潟市歴史博物館  
博物館ニュース

帆樯成林

Vol.60

## CONTENTS

特集1 高校生ボランティアの取り組み	P.2~3
特集2 歴史発見プロジェクト企画展「1964—歓喜・悲嘆・奮励の366日—」展	P.4
歴史さんぽ 的場史跡公園	P.5
おすすめの一冊 越佐文人往来	P.5
研究notes(第39回) 葛蒲塚古墳と葛蒲御前伝説	P.6
館長日記 石燈籠がなくなると新潟と大阪往吉	P.7
収蔵資料紹介 浅見安兵衛「観音図」	P.7

印刷/株式会社博進堂  
編集・発行/新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10  
帆樯成林「はんしょうせいりん」第60号 発行日 令和6年1月18日

## 【たいけんのひろばプログラム】

楽しみながら、遊びながら、昔のことを学びます。

日時	タイトル	内容	申込み・対象・参加費
1月20日 14:00~15:30	もめん部	博物館にある資料を使いながら、布生産にまつわる手仕事を体験します。	大人向けの活動・部員が対象
1月28日 14:00~15:00	さらさら砂絵	新潟は砂丘の上にてきたまちです。町の成り立ちと深く関わる砂を使って、絵をつくりましょう。	どなたでも・申し込み不要・無料 材料がなくなり次第終了

お申し込みは、電子メール・往復はがきで当館まで。申し込み締切日は、当館までお問い合わせください。

## 開催中の企画展

### 「収蔵品・新収蔵品展」

資料の収集・保存は博物館の重要な事業です。収蔵品展では、「いろいろな地図を見る」と題し、所蔵している地図から新潟の町の移り変わりを紹介します。新収蔵品展では、今年度新たに収集した資料を紹介します。

会期 2023年12月16日(土)~2024年1月28日(日)  
休館日 毎週月曜日(1月8日(月)は開館)、  
12月28日(木)~2024年1月3日(水)、1月9日(火)

## 次回企画展

### 2023年度みなとびあ歴史発見プロジェクト企画展 1964—歓喜・悲嘆・奮励の366日—

世界最速の新幹線が走りだし、アジア初のオリンピックが東京で開催された1964(昭和39)年、新潟では国民体育大会が開催され、大地震が発生しました。新潟にとっての転換点にもなった1964年の出来事と新潟の人々の様子を織り交ぜながら振り返り、その後の街づくりの進展について考えます。

会期 2024年2月17日(土)~3月24日(日)

開館時間 午前9時30分~午後5時(観覧券の販売は閉館30分前まで)

観覧料 一般/300円、大学生・高校生/200円、中学生・小学生/100円  
[20名以上は団体料金で2割引、小中学生は土日祝日無料]  
※本展の観覧には常設展観覧券が必要です

休館日 毎週月曜日、2月27日(火)、3月21日(木)

協力 新潟県生涯学習推進センター

後援 新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV(株)ニューメディア、FM新潟77.5、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ほかほラジオ

- 展示解説会  
日時: 毎週土曜日 午前11時から20分程度  
会場: 本館1階 企画展示室  
参加費: 無料 ※常設観覧券が必要
- 防災ワークショップ「みんなで防災」  
日時: 3月3日(日) 午後2時~4時  
会場: 本館1階 たいけんのひろば  
対象: どなたでも ※小学生以下のお子さんは保護者同伴  
申し込み: 必要 ※2月24日(土)メ切(応募多数の場合は抽選)  
定員20名  
参加費: 無料
- 上映会  
①「新潟国体」映像上映会  
日時: 3月14日(木) 午後1時30分~2時30分 ※開場は午後1時  
会場: 新潟県立生涯学習推進センター1階ホール  
申し込み: 不要 ※先着順、定員186名  
参加費: 無料  
②「新潟地震」映像上映会  
日時: 3月20日(水祝) 午後1時30分~3時15分 ※開場は午後1時  
会場: 本館2階セミナー室  
申し込み: 不要 ※先着順、定員60名  
参加費: 無料

関連イベント

## 博物館講座

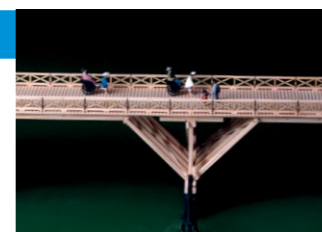
当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマについて、毎月第4日曜日にお話します。

【時間】10時~11時30分 【会場】本館2階セミナー室  
【申し込み】要事前申し込み(定員60名程度) 【資料代】無料

◆2月の講座: 2月25日(日) ※申し込み開始: 2月7日  
明治新潟の大火と人々 - 明治13・41年の大火を中心に - 講師: 鈴木彩也花

## みなとびあ便り

新型コロナウイルスの規制が緩和され、みなとびあに学校見学のにぎわいが戻ってきました。みなとびあの学校見学は、小学校3年生の「むかしのくらし」単元に関するものが中心です。歴史はまだ勉強していない子たちなので、常設展示室では、後半の民俗展示を中心に、時間があれば歴史展示の目立つものや、面白そうなものをピックアップして案内しています。



中学生も注目した萬代橋模型

新型コロナ禍では、中学校の修学旅行での見学も多くありました。歴史展示に進んで興味を持ってくれたり、模型の細かさに注目したりと、中学生の関心は小学生と異なっていて興味深いものでした。新型コロナ禍の経験が、より幅広い学校見学へのアプローチにつながるとうれしいと思っています。(学芸課 田嶋)

## お知らせ

■2024年1月29日(月)~2月9日(金)まで  
施設整備のため休館となります。

## 旧小澤家住宅企画展

■「伊勢型紙の世界」展 会期: 11月18日(土)~1月21日(日)  
■「ひな人形とからくり人形」展 会期: 2月17日(土)~3月24日(日)  
開館時間: 午前9時30分~午後5時 休館日: 原則月曜日、祝日の翌日、年末年始  
入館料: 一般200円 小中学生100円(小中学生は土・日・祝日は無料)  
所在: 新潟市中央区上大川前通12番町2733(みなとびあから約900m、徒歩12分)  
TEL: 025-222-0300

■編集後記 今回は、今年度より始動した高校生ボランティアの取り組みについて特集しました。昨年11月に行われたボランティアイベント「ボランティアフェスティバル2023」では、初めて高校生のボランティアが他のボランティアと一緒にイベントをつくりあげました。当日は仲良く交流する姿がうかがえ、一緒に記念撮影もしていました。このような世代間交流は、ボランティア活動をする楽しみに繋がると感じているので、今後も積極的に交流の場をつくらせていきたいと思います。(鈴木)

## ■お問い合わせ・申込みは博物館まで

新潟市歴史博物館 みなとびあ  
住所: 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10  
Tel: 025-225-6111 Fax: 025-225-6130  
E-mail: museum@nchm.jp URL: https://www.nchm.jp  
【休館日】毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始(12/28~1/3)  
【開館時間】(4~9月)9:30~18:00/(10~3月)9:30~17:00

2023.6月現在

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、新潟の街をみんなで盛り上げていこう!という事業です。

NST 日和山五合目 北陸ガス 本間組 田中屋本店 新潟 21111111  
Hummingbird 羽音 TOUR WIND シネマ ワタシの町 沼垂ビル 念吉 Travel Masters



# 高校生ボランティアの取り組み

鈴木 彩也花

当館では、開館と同時にボランティア制度を導入し、ボランティアのみなさんに常設展示室や敷地でのガイド、たいけんプログラムのサポートをしていただいています。現在では、一、二九名という多くの方々にご登録いただき、年々活動の幅も広がっています。

## 高校生ボランティア設立のきっかけ

高校生ボランティア設立のきっかけは、新型コロナウイルスの流行が背景にありました。二〇二〇年、新潟県立新潟工業高等学校（以下、新潟工業高校）の先生から「みなとびあで高校生ができるボランティア活動はありませんか」というお申し出をいただきました。新潟工業高校には「ボランティア同好会」があり、コロナ流行以前は市内各地でボランティア活動をしていましたが、コロナ流行後はボランティアの受け入れを休止する施設が多くな

ってしまっただけです。また、新潟工業高校の先生自身が当館のボランティアでもあったため、お声がけをいただきました。

これまでボランティアの中には、高校生も数名登録していましたが、学業との両立が難しいこともあり、定期的な活動していた方はほとんどいませんでした。

今回のお話はボランティア活動を通じて、高校生に当館の楽しみ方を知ってもらおうと企画していただく方々、感染症対策を取りつつ、新潟工業高校の生徒をボランティアとして受け入れることにしました。生徒たちはとても意欲的に取り組み、中には自らたいけんプログラムを企画してくる方もいました。また、当館のボランティアとして高校一年生の時から熱心に活動していた一人の生徒にも影響され、高校生を対象としたボランティアを設立することとなりました。

## 高校生ボランティア始動！

一昨年十二月から市内の高校を対象に募集し、昨年二月に説明会を行



イベント準備の様子

ど、遊び方を工夫していました。③葉っぱのスタンプ本づくりは、当館の敷地で採取した植物の葉に絵具を塗り、スタンプのように押しつけて色とりどりの本をつくるオリジナルプログラムです。多くの参加者がいた場合に対応できるように敷地にある植物の葉を事前に採取するなど、様々な場面を想定して準備をしていました。また、葉だけではなく、松ぼっくりなども採取し、スタンプができるか実験するなど、試行錯誤しながらプログラムを考えていました。

④むかしのあそび体験は、これまでも定期的に実施していますが、今回はけん玉や輪投げなどの遊び体験に加え、お手玉と竹とんぼをつくることにも挑戦しました。竹とんぼづくりは、子どもでも簡単につくることができるよう、牛乳パックとストローでつくる簡易的なものになりました。お手玉づくりは、当館の敷地にある旧新潟税関庁舎のきんちやく型の窓をモチーフにしてつくりました。

イベントを告知するためのチラシも有志の生徒が作りました。イラストが得意な生徒がプログラムの内容に沿ったイラストを描き、インスタグラムなどの若い世代がよく利用するSNS媒体での広報を意識したデザインを考えました。



有志の生徒とともにつくったチラシ

この効果もあり、イベント当日は約二〇名という非常に多くの方にお越しいただきました。高校生ボランティアからは「子どもたちはもちろん、一緒に来てくださったお父さんお母さんとも会話をし、自分自身も楽しむことができました」「色々な人とコミュニケーションを取れてとてもいい経験になった」といった感想を聞くことができ、プログラムに参加した方々とのコミュニケーションを楽しみながら充実した一日を過ごせたことがうかがえます。

## みなとびあど高校生ボランティア

高校生ボランティアの活動では、毎回、活動の最後に振り返りというかたちでその日の感想を記入してもらっています。これを見ると、活動の楽しみのひとつに他校の生徒たちとの交流があるようです。どの活動でも「他校の生徒と仲良くなれて楽しかった」と

ミンクを外し、八月に一つのイベントを作り上げることを目標に、四月から活動を開始しました。

## たいけんのひろばなつまつり

八月には「たいけんのひろばなつまつり」と題したイベントを実施し、四つのグループでそれぞれたいけんプログラムを企画、運営してもらいました。

まず、実施するプログラムの内容を決める参考にするため、生徒たちに新潟市及び当館の魅力を考えてもらいました。ここでは、「魚やお米がおいしい」といった新潟市の魅力をはじめ、「スタンドグラスがきれい」「敷地がすてき」「むかしのことを楽しく学べる」などの当館の魅力があげられました。以上のことから、①トンボ玉とスタンドグラス風飾りづくり、②みなとびあ釣堀、③葉っぱのスタンプ本づくり、④むかしのあそび体験という四つのプログラムを実施することになりました。

①トンボ玉とスタンドグラス風飾りづくりはこれまで実施してきたプログラムの中で最も準備が多かったです。特に、イベントの準備では、初対面の生徒同士でプログラムの内容を考えることに難航する場面もみられましたが、仲良くなるにつれて積極的に意見を出し合い、協力して準備をする姿がみられました。このような場合は生徒たちにとって、協調性やコミュニケーション力を培うことに繋がったと思います。ほかにも「観察力と行動力を身につけることができたと」といった感想もあり、社会で必要となる様々な素養を身につける機会にもなったようです。

当館にとっても高校生にボランティア活動をしてもらうことで期待できることがあります。それは歴史・文化の拠点である博物館で市民と触れ合いながら活動することにより、若いうちから地域への愛着を深めてもらうことです。そして、社会人になってもその思いを持ち続け、新潟市の歴史・文化や当館の魅力を発信してもらいたいと思っています。

高校生ボランティアは、紹介した活動以外にも、企画展関連事業の準備サポートなど、様々な場面で活躍しています。今後は、これまで以上に生徒たちの興味や特技を活かしながら、活動の幅を広げていきたいと考えています。

（すずき さやか 学芸員）



たいけんのひろばなつまつり「みなとびあ釣堀」の様子



二〇二四年を迎えた最初の企画展は六〇年前の一九六四年・昭和三十九年がテーマです。昭和三十九年は日本にとって、そして新潟にとっても、大きな転換点となった年でした。この年、日本では、悲願であった東京オリンピックが開催されました。オリンピックの開催へと社会が突き進み、世は経済成長の真っただ中にありました。一方、新潟では、オリンピック開催直前に国民体育大会が開催され、華々しいにぎわいの直後、大地震に見舞われました。町は壊滅的な被害を受け、そこから復旧・復興に邁進することになりました。

本展では新潟の人々の視点から昭和三十九年を振り返ります。本稿では、開催に先駆け、展示に関するトピックをご紹介します。

国体開催、決まる

昭和三十五(一九六〇)年十二月、四年後の三十九年に開催する第九回国民体育大会(国体)の開催県が新潟県に内定しました。一八回の山口県、二〇回の岐阜県と合わせての内定でした。また昭和三十九年は秋に東京オリンピック開催を控えているため、国体秋季大会を繰り上げ、六月開催の春季大会とすることとされました。国体は「戦後の荒廃によって健全娯楽を失った国民、特に青少年にスポーツの喜びを与え、平和の表徴としてのスポーツ

を浸透させる」ことを目的に、昭和二十一年、京都を中心に近畿地方にて開催されたのが始まりです。第二回の石川県開催が決定すると、これ以降の開催については全国各地からの開催誘致合戦が始まりました。この背景には、地方における戦後復興がありました。国体の開催が決まれば競技会場や道路などの整備を進めることができるためです。新潟県は第五回、一五回、一八回の開催誘致運動を展開し、ようやく念願の開催地に選ばれたのでした。

堀の埋め立て

国体の開催が決まると、新潟の町は国体に向けて整備が進みます。中でも町の姿を大きく変えたのは堀の埋め立てでした。

不要となった堀は昭和二十年代から部分的に埋め立てられていました。そして、昭和三十年の新潟大火後の復興計画で、東堀の全面埋め立てや一番堀、西堀などの一部埋め立てが決まり、工事が行われていました。さらに国体開催が決まり、交通事情の改善や景観美化の観点から、全面的に堀を埋め立てることになりました。新潟情緒を象徴する西堀の埋め立てには一部反対もありましたが、本来の機能を失い、悪臭を放っていた堀が新たに道路に生まれ変わることについては多くの市民が歓迎したのでした。六月五日の国体前夜

新潟地震

六月十六日午後一時過ぎ、粟島南方沖を震源とするマグニチュード七・五の地震が新潟市を襲いました。特に信濃川沿岸部の埋め立て地や港湾地帯は壊滅的な被害を受けました。液状化現象で吹きだした砂と地下水は道路を埋め、鉄筋コンクリートの建物までもが傾きました。信濃川をさかのぼる津波は地震で崩れた堤防を



小林百貨店前 西堀の埋め立て工事が進む(昭和39年2月 桜井進一撮影)

祭では、道路へと生まれ変わった西堀通りで大民謡流しが開催され、全国から集まった国体出場選手も踊りの輪に加わりました。

超え、浸水被害を拡大させました。昭和石油新潟製油所ではタンク火災が発生し、周囲に延焼しながら何日も燃え続けました。現場から五〇〇メートルほどしか離れていない桃山小学校で被災した人の回顧談によれば、大きな揺れと爆発音はほぼ同時に発生し、昭和石油での大爆発が揺れを引き起こしたのだと感じ、これが地震であったと知ったのは後のことだったそうです。また、閑屋にいた高校生は北の空を覆う真っ黒いキノコ雲を見た当初、原爆でも落ちたのかと恐怖を感じたといいます。

傾いたビル、落橋した昭和大桥、石油タンク火災で立ち上る黒い煙など被害の様子を全国にいち早く伝えたのはテレビ放送でした。一方、被災した市民たちにとって大きな頼りになったのがラジオでした。インフラの被害・復旧情報や尋ね人情報など暮らしに密着した情報はラジオで発信されたからです。新潟地震時に行われた、被災地の外と内とむけて、テレビとラジオが役割を分担して情報を発信する報道形態は現在の災害報道の原点となつたとされています。

昭和三十九年の経験は今の街づくりにつながっています。この展示が、実際に体験された世代とそうでない世代との交流が生まれるきっかけになることを願っています。(あいの かおり 学芸員)

歴史さんぽ

的場史跡公園

的場史跡公園は、西区の流通センターの近く、的場流通にある公園です。発掘調査によって、この一帯からは奈良・平安時代を中心とする遺構や大量の遺物が出土しました。漁網に付けたと考えられるオモリやウキ、鮭に関する文字が記された木簡、役人の装身具などの出土品は、当時の漁業のあり方や、その漁獲物を管理していた痕跡を示す貴重なものです。その一部は、平成6(1994)年3月に県の指定文化財となり、残りは現在、市の指定文化財になっています。

現在、公園には、高床式倉庫を模した、あずま屋風の展示施設があります。この施設では、出土品や、当時の様子をジオラマで紹介しています。また、潟をイメージした水辺や、柱の再現展示などもあります。土中に眠る



公園全体の様子



掘立柱建物跡

遺跡と、当時の営みに想いを馳せながら、お散歩してみませんか。

安宅 俊介(あたく しゅんすけ 学芸員)



あずま屋風の展示施設

おすすめの1冊

越佐文人往来

江戸時代になると街道が整備され、人々はお伊勢参りをはじめ、旅に出るようになりました。越後の医師や絵師、学問を志す人々は、京都や長崎、江戸へ出て学び、諸国の文人らと知り合い、親交を深めました。また、多くの文人たちは、地方へと赴き、その土地の風土や土地の人々と触れ合い、文化を広めました。

越後・佐渡は、近世から近代において文人たちが一度は訪れた場所のひとつでした。それは、最新の情報や学問を学ぶため、彼らを泊めてもてなす旦那衆が多くいたことも大きな理由でした。

著者の岡村鉄琴氏は越後文人と来越文人の足跡や交流を研究し、実地の調査を積み重ねてきました。本書は、二〇一三年から新潟日報に連載したものを中心に、関連する著述を一冊にまとめたものです。

江戸で多くの子弟を育てた亀田鵬斎が越後で良寛と出会い書風を一変したことは、あまりに有名な話です。良寛を軸とした文人たちの交流、巖谷二六・小波父子、相馬御風と魯山人、會津八一…本書は江戸・明治期の越後を舞台にした文人たちの足跡を追って、越後文化をとりまく背景を浮彫りにしています。文人たちを身近に感じることが出来る一冊です。

(大森 慎子 学芸員)





# 菖蒲塚古墳と菖蒲御前伝説

古墳は古代大和政権を象徴するモニュメントです。ところが天皇陵など特別なものを除くと、その多くは時代の流れとともに放置され、人々の記憶から忘れ去られてしまいます。ただ、自然の造形とは異なるその威容さからか、本来の目的とは異なる内容で信仰の対象になっていくものもありました。それは古墳の二次利用といえるかもしれません。地域の伝説と結びついて蘇える古墳もその一つです。

新潟市内でも伝説にかかわる古墳は身近に存在しています。西区に所在する緒立八幡宮古墳は、平安時代に一帯を荒らしまくった大悪党・黒鳥兵衛の首塚と伝えられてきました。そして今回取り上げる西蒲区の菖蒲塚古墳は、源頼政の妻である菖蒲御前の墓とされてきました。

菖蒲塚古墳は全長五三メートルの前方後円墳で、古墳時代前期、四世紀後半の築造とされています。新潟県を代表する古墳で、昭和五(一九三〇)年に国史跡に指定されています。

古墳は金仙寺の西側丘陵上にあり、金仙寺の山号は「菖蒲山」です。古墳は江戸時代に盗掘され、その時に「龍鏡」が出土しました。盗掘を知った金仙寺は次の盗掘を恐れて発掘し、その際に古墳に伴うヒスイ製の勾玉や碧玉製の管玉のほか、中世に経塚として利用されたことを示す銅製の経筒や経典とともに埋納さ

れた和鏡、青白磁の小壺・合子、それらを入れる陶製の壺などが出土しました。

いつから古墳と菖蒲御前の伝説が結びついたのかは明らかではありませんが、宝暦六(一七五六)年の丸山元純による『越後名寄』には、菖蒲御前が頼政を弔ってこの地で亡くなったこと、それにちなんで金仙寺の山号「菖蒲山」になったことなどが記されています。その後の文化九(一一二二)年の橋崑崙著『北越奇談』や文化十二年の小田島允武著『越後野志』にも菖蒲御前にまつわる同様の記載があり、さらに御前が葬られた「菖蒲塚」があることなども記されています。おそらく江戸後期には古墳が菖蒲御前の墓として地域に定着していたのでしょう。

御前の夫である源頼政は治承四(一一八〇)年、もろひし王を奉じて源平合戦の火ぶたを切った人物です。先年、宮中に出没する鶴を頼政が退治したことで、当時宮中では並ぶ者がいない美女であった宮女の菖蒲御前を帝から褒美として賜ったとされています。このエピソードは『太平記』などにも記載され、広く知られています。

頼政は敗れ京都で自害し、御前は頼政と縁がある越後に逃れ、頼政を弔いながら亡くなったと当地では伝わっています。また、落ち延びた後に生まれた頼政

との子が小国氏の支城であった岩室の天神山城主になったともされています。越後の小国氏が頼政の弟頼行にかかわりがあることから、そうしたストーリーが生まれたのかもしれない。

菖蒲御前の伝説は当地に限らず他地域にも存在しています。菖蒲御前の出身地とされる伊豆の国市にも頼政戦死後に伊豆に戻り頼政を弔いながら余生を過ごした話があり、毎年、御前と頼政をしのぶ「源氏あやめ祭」が開催されています。また東広島市にも御前逃亡の伝説があり、ゆかりの地が地域の名所になっています。

江戸時代、伊豆にも菖蒲御前の墓があることは越後側でも承知していたようです。先の『越後野志』には、伊豆にある菖蒲塚は源頼政の妻の菖蒲ではなく、梶原三郎兵衛の妻の誤りだとし、地元の正当性を主張する記載があります。地域のPR合戦のようで、ほほえましさも感じられます。

ではなぜ金仙寺や古墳が菖蒲御前と結びついたのでしょうか。江戸時代に菖蒲塚古墳近辺から掘り出されたことされる石塔に「菖蒲貞阿禪尼」の文字を確認することができ、寺の過去帳にも同名の人物が貞応二(一一二二)年に亡くなったとする記録があるとのこと(註)、真実は定かではありませんが、没年がほ

小林 隆幸

は同時代となる菖蒲貞阿と菖蒲御前が同一人物視された可能性があります。そうした地域の素材に関連付けながら菖蒲御前の越後逃亡説を唱えるとき、御前の墓とされた古墳は信ぴょう性を高める役割を果たしたのでしょうか。菖蒲御前伝説は、当時の人々の地域への思いや想像力がうかがえる興味深いものです。

このように古墳が地域とかかわりながら新たな信仰の対象となって甦ってきた歴史は、古墳研究の新たな視点になりそうです。

(こばやし たかゆき 副館長)

(註) 卷町一九九二「卷町史 資料編六 民俗」



菖蒲塚古墳(左)と従者の墓とされる卑人塚古墳イメージ図

# 館長日記

新潟市歴史博物館 館長 坂井秀弥

## 石燈籠がつなぐ新潟と大阪住吉

仕事上のつながりで、昨夏、大阪の住吉大社をたずねました。境内に六四〇基ある石燈籠が調査され、江戸時代に全国各地から奉納されたことがわかると聞いたからです。住吉大社は住吉神社の総本社であり、航海の守護神として崇敬されてきました。北前船で栄えた港町新潟は住吉神社・住吉祭もあり、住吉との関係も容易に予想されます。

果たして、住吉大社の寛政五(一七九三)年の燈籠には、奉納者である「江戸松坂屋、大坂南中買古手屋中」の一人として、「越後新潟當銀屋専助」の名が刻まれました。帰ってから当館の安宅学芸員にきくと、當銀屋専助は、廻船問屋として活躍した新潟町の商人で、豪商の當銀屋善平家の分家といえます。おどろいたことに、

新潟の白山神社にも同一人物の江口専助が奉納した石燈籠があり



ました。天明五(一七八五)年のもので、新潟歴史双書「白山公園あたり」の写真をみると、全体の形状が住吉のものに似ているのです。白山神社にその石燈籠(写真)を見に行きました。薄ピンクの花崗岩製で、笠の四隅がシャープに斜め上方にのびるなど、住吉の特徴がみられます。十二月に住吉大社を再訪し、あらためて住吉のものに比べると、まちがいはなく大阪でつくられたことがわかりました。北前船が運んだといえます。最近、近世・近代の石造物は文化財として注目されています。近世以降大きく発展した新潟は、その点今後の解明が大いに期待されます。

### 収蔵資料紹介

## 浅見安兵衛「観音図」

柔らかな線で優美な観音の姿が描かれています。捧げ持つ法具の愛らしいウサギは、それが熱や毒を消すとされた宝珠「月輪」であることを示すのでしょう。背景は金泥と墨によって、にじみの効果をねらった「たらしこみ」という日本画技法が用いられています。

作者は京都の陶工浅見安兵衛。清水焼で修業し、昭和前期の帝展工芸部門で入選の記録があります。清水焼の当主は代々文人趣味に通じ、画家に師事しました。安兵衛も同様に作陶の傍ら絵を学んだと思われます。

この絵は、江戸後期から明治にかけて本町通で陶器商を営んだ田邊家の旧蔵品です。その店構えは明治二十二年(一八八九)年発行の『北越商工便



覧」で紹介されており、新潟の有力商家であったことが分かります。

田邊家の明治期の目録資料から、膨大な数の書画を所蔵していたことがうかがえます。大正期の入札会で多くは人手に渡りましたが、入札にかけなかった作品や、後の収集と思われるものが今に伝わっています。全国的に著名な画家・書家の他、行田魁庵や白井華陽といった新潟ゆかりの画家、新潟を訪れて田邊家と交際した文人たちの作品などが含まれています。

浅見安兵衛については、他の絵画作品や陶人形も残されており、付き合っている作家だったのでしょう。陶器商で栄えた田邊家ならではの作品です。

(中村里那 学芸員)